

令和5年度（2023年度）第1回宝塚市男女共同参画推進審議会 会議概要

1 日 時 令和5年（2023年）8月22日（火） 午前10時～12時

2 場 所 宝塚市役所 研修室（zoom会議）

3 出席者

（1）出席委員 委員10名中9名出席

大束委員 大野委員 塩川委員 澤田委員 杉山委員

中村委員 西中委員 濱田委員 正木委員

（2）事務局

中出部長 吉岡室長、山下課長、池澤係長

（3）その他

指定管理者 山田所長

4 全体進行

- ・委嘱辞令交付
- ・市長あいさつ
- ・委員自己紹介、事務局職員紹介
- ・会長、副会長選任

事務局より会長に中村委員、副会長に開本委員という提案を行ったところ、全員一致で承認された。

- ・会長、副会長あいさつ
- ・会議の成立について（委員の過半数が出席）
- ・傍聴者について（傍聴希望者なし）

5 審議事項等

（1）宝塚市における女性の公職状況（令和5年（2023年）4月1日現在）について

（2）第2次宝塚市男女共同参画プラン推進状況について

6 主な意見等

（1）宝塚市における女性の公職状況（令和5年（2023年）4月1日現在）

事務局 <資料に基づいて説明・省略>

会長 農業や水道など専門職が多いところは、男性が多い。

委員 パチンコ店等審査会は、女性委員の割合が75%となっている。なぜ、そんなに女性委員の割合が高いのか。

事務局 担当課から、令和4年6月の委員改選において、それまで就任していた知識経験者が退職により辞任されたこと等により1名減のままとされているため女性委員の比率が高いと聞いている。

クオータ制として、40%～60%を目指しているが、人数がもともと少ないこともあり目標より高くなっているということなので、何かの傾向があるということではない。

委員 審議会委員は何期務めるといった慣行があるのか。防災会議が女性委員の割合が低い。ポスト以外の委員に女性を増やして改善しているところもあると聞いている。そのような方法も考えていかないといけないのではと考える。民生委員・児童委員は男性が少ない。改善が必要ではないかと思う。農業委員会、建築審査会は男性が多いイメージがあるが、女性委員もいる。バランスを取っている秘訣があるのか。監査委員に女性がいらない。1人が議会からで、あとは宝塚市が選んでいるのではないかと思う。宝塚市が女性委員を入れる努力が必要なのではないかと思う。管理職も女性が少ない。同じ能力があれば女性を管理職にし、増やさなければならない。監督職も女性を増やさなければならないと思う。PTAの会長に女性が多い。そこは問題がある。

事務局 まずは、審議会の任期のところでこういうふうになっているのではないかと、各審議会、知識経験者の委員については任期10年である。公募委員の任期は2年である。審議会の中で、10年の任期で変わる中で、各部局に対して、専門の委員については女性をお願いしているところである。防災会議は以前から言われているところであり、消防庁や警察署長等男性の多い職場の方が委員になっている。担当課の中では、女性委員を増やすという点に力を入れているところである。防災会議の全国平均は12.6%であるが、近隣で言えば、三田市が34.6%、丹波篠山市が33.6%と3割を超えているところが多いので、担当課に働きかけていきたいと思っている。民生・児童委員については女性が多いところであり割合が高いが、クオータ制と離れた分野ではあるが、声をかけていきたいと思う。固定資産評価委員については、専門性が高いところもあり、不動産鑑定士にも女性がいらないわけではないので担当課に働きかけていきたい。監査委員については、今回女性委員が入ってくださっている。また、市職員の現状であるが、管理職になる前に監督職になることから、監督職になるために、人材育成で考えないといけないと思う。市としては特定事業主行動計画を策定して、目標値を出している。注視していかなければならないと思う。

会長 市職員の状況の管理職がどのような状況なのか聞きたいと思う。管理職の女性で多いのは幼稚園園長や、保育所所長が多いのかなどがわかればと思う。

事務局 部長級では、子ども未来部、財務統括、次長級では、商工部局や人権平和、政策部局などで、職種によってというよりは全体的にまんべんなく配置されている。

委員 市職員の状況についての質問だが、係長級で女性職員の割合が2

8. 1%となっているが、男女とも想定している年代はあるか。一般職の女性職員の割合が65.4%であるが、係長になろうと考えている職員が60%ぐらいなのか、少ないのか、個々に関して何かあるのか。

事務局 傾向として、男性職員は年代別に係長職員になろうと思う職員が合致していると思うが、女性職員は、年齢が高い係長が多く、若い年齢の係長は少ないと思う。係長試験を受けている方が少ないように思う。

委員のご指摘のとおり、女性職員は入庁する際の年齢が若いと思う。一時、職員を減らそうということで絞り込まれた時期があった。最近では、団塊の世代が順次再任用等で先細っていくの見えるので、若い人を採用し始めているというところである。男女ほぼ半々だが女性の方が若干多いかなというくらいである。あと一つは係長にならないという思考が、男女問わず見られたところもある。それも、ここ近年では改善方向に見られる。若い層から係長試験を受けてくれるのではないかと、考えている。一方、すぐに部長、次長、課長に、女性がでてくるかという、時間を要するのではないかと感じている。

委員 誰かが係長になっていく中で、若い層が手を上げられるような状況が必要だと思う。どういったことができるのか検討いただきたい。

(2) 第2次宝塚市男女共同参画プラン推進状況について

事務局 <資料に基づいて説明・省略>

委員 男女共同参画推進リーダーというものが、地域における男女共同参画推進リーダーについて、市役所に男女共同参画推進リーダーがいて役割が分かりにくくなっている気がする。課長級等が役職を持って担っているが、地域では講座を行っていないし役割が分からない。地域における男女共同参画推進リーダーがこれまでにないということが気になった。地域の方が男女共同参画推進リーダーの役割を明確にしなければ難しいのではないかなと思う

事務局 自治会やまちづくり協議会で研修を行っていただくことを想定している。まちづくり協議会の代表者が集まっている会議で、まちづくりでの男女共同参画の大切さについてチラシを配って説明したりしている。

地域の方に男女共同参画について何をするのか提示できていない状況である。庁内でも、チラシ等の広報物作成の際に男女共同参画を意識してもらうに留まっている。

委員 自治会長や防災会議にも女性が少ない。自治会等に出向いて研修するなど、意識を持ってもらえるようなことを考えてみてはどうか。

委員 コミュニティで男女共同参画を進めることは重要だ。どうすれば進めていけるのか、原点に立って市役所で協議するなど検討してほしい

い。

事務局 過去には、県内で1番目に男女共同参画センターができて、男女共同参画宣言都市も最初に宣言（塩尻市、堺市とともに）した時期があり、ここまで来たと思っている。次のフェーズに入ってどのようなことができるのか検討していきたい。

会長 皆様からこういうものがあるという提案があればうれしい。

委員 自治会長の女性の比率が高い。PTAに働きかけることもできるのではないかと思う。その方々に、地域の中でも活躍していただくことができればと思う。

委員 以前は、女性ボードがあって女性が活躍していた。パワーのある女性たちがいた。その後、団塊の世代の男性たちが地域に戻ってきた。女性たちは地域をどうしていこうかと考えた。子育てが一段落した元PTAの女性たちも参画し、女性たちがお祭りなどをやった。地域のことも学校のことも分かっている人に活躍してほしいと思う。

委員 コミュニティを男女共同参画で活性させているまちをめざすために、今は、まちづくり協議会長も男性が多いが、その方々に男女共同参画を学んでいただいて、女性に活躍していただきたい。

委員 まちづくり協議会の代表者会議に出席していたが、男女共同参画推進のチラシを配布された時に、地域によって温度差がある。男女共同参画って何や？みたいな方もいるし、自分らは何をしたらいいの？と言う方もいた。まちづくり協議会を良くしていこうと盛り上がっている地域の方もいる。コミュニティにすれば、この町はどうしたらいいのかという思いを持っている。市とまちづくり協議会の関係性がもう少し良くなればいいのではと思う。コミュニティをつくりなおしていこうというくらいで、男女共同参画を推進していけば良いのではないかな。

委員 少年野球のチームとコミュニティの結束が強い。少年野球は、コーチは男性、女性はお茶くみなど、昭和の感じのやり方をする方もいて、うまくいかない。実際は難しいと思う。

委員 地域に会社のような上下関係を持ってくる場合もあり、宝塚も古いところがある。熱心に地域の取組をしているのは、年齢の高い方で70代の方を中心に活動されている。女性たちもパワーはあるが、退職された男性が中心に活動されていて、「長」がつく役割は男性が担っているほうがうまく回りやすい。女性が活躍するためにはインセンティブがないと難しいのではないかと思う。例えば、リーダーに女性が何割いると、補助金が付きやすいなど、分かりやすいものが必要だ。

委員 女性の自治会役員を少しずつでもいいから育てていくことが大事である。PTAから、地域へと活動の場を変えて活躍してほしい。女性が自治会長になったときに周りの経験豊富な方が女性会長を支える。1度経験した自治会長は自信を持つ。市民を育て女性リーダーを

育てることが必要だと思う。男性たちも意識改革を行っていかねばならない。

委員 性教育は重要であり、しっかりやっていただきたい。女性の性被害について、内閣府と警察庁、両方でやっている。内閣府男女共同参画局では女性の支援と啓発をやっていると思うので、検討してほしい。

事務局 子どもの性被害については、教育委員会に伝えたい。性被害の啓発については、男女共同参画センター情報啓発誌エル・コンパスで寄稿を掲載し啓発を行ったり、困難な問題を抱える女性への支援に関する法律が施行されることを受けて、市では相談室を設けることを検討している。他にも県の機関等とも連携しながら、進めていきたいと思っている。性被害に関する相談があれば、適切に対応したい。